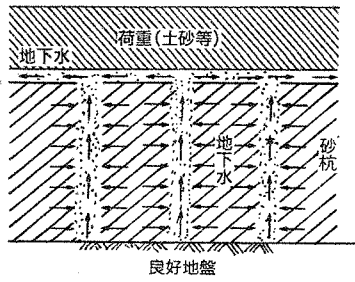
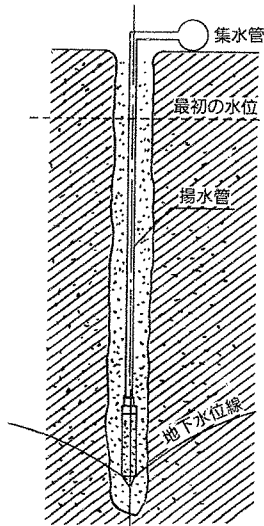


東京市立図書館蔵書



[サンドドレイン工法概要図]



[ウェルポイント工法概要図]

排用水砂 サンドドレイン工法による基礎工事

豊洲工場の敷地は基礎としての地盤が悪く、使用するためには通常の埋立地より長い放置が必要と考えられた。しかし、ガス製造は31年末に開始しなければならない。短期間にかつ重要施設が地震に耐える強固な基礎を築くために、いくつかの耐震構造基礎が比較検討された。そして「サンドドレイン (Sand-drain) 工法」が、工期を大幅に短縮できる優れた基礎工法であるという結論を得て採用された。

同工法がわが国に導入されたのは豊洲採用のわずか3年前で応用例もまだ少なく、豊洲でのコークス炉のような大規模な重量構造物の基礎への採用は画期的なことであった。

基礎工事の後半には、「ウェルポイント (Well-point) 工法」が併用された。その結果、工事はいっそう順調に進められ、コークス炉基礎コンクリート打ちの部分は30年8月中旬、石炭塔部分は8月末、残りの部分は9月末に完了した。

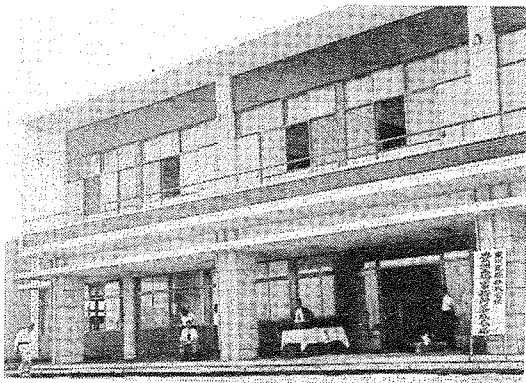
3 完成した新鋭装置・施設

地上施設の建設

埋立、基礎工事の進捗状況にあわせ、地上施設が次々と着工された。

30年7月、工場の事務所がいち早く完成した。工場事務所としては珍しい、シックな色調とモダンな外観は、新鋭工場にふさわしいものであった。1階1,274㎡、2階300㎡の広さの鉄筋2階建ビルで、200名収容の大講堂、大食堂、2カ所の浴場があり、いたるところに最新の技術・機器が採り入れられていた。

事務所落成式
(昭和30年7月15日)



30年11月のG I装置地鎮祭につき、12月5日、最大施設であるコークス炉修葺式・煉瓦積起工式が本田社長ほか多数参列のもとに行われた。

翌31年9月、コークス炉の火入式が行われ、10月には発生炉の温しゃを開始した。10月には豊洲KLバースの開設式が行われ、石炭輸送の第一船高取山丸が入港した。

ここに社の命運をかけて建設した東洋一のガス工場・豊洲工場

東京ガス豊洲工場史

昭和63年9月発行

発行 東京ガス株式会社豊洲工場
東京都江東区豊洲6丁目3番16号

制作協力 大日本印刷(株)CDC事業部年史センター

印刷・製本 大日本印刷株式会社
東京都新宿区榎町7番地
